

日本語初級クラスにおける音読劇の試み

福富七重・土居美有紀

要 旨

日本語教育の授業においては、学習者の主体性や教材作品を理解し表現することを目的に時にスキットや劇などの演劇的活動が用いられる。筆者らは初級クラスの授業において、しばしば音読劇の活動を取り入れてきた。授業の中で主体的に、楽しそうに音読劇に取り組む学習者の様子から音読劇における効果を感じていた。そこで今回、学習者に対し音読劇に関するアンケート調査を行った。その結果、学習者のほぼ全員が「楽しい」と感じ、また音読劇は通常の劇よりも取り組みやすい活動であることもわかった。また音読劇による学習の効果に関して、特に初級前半の学習者には語彙や文法、発音など日本語の運用面に関する効果が、初級後半の学習者にはストーリーについて深く考え、味わうことなど読みの深まりに関する効果が認められた。同時に音読劇に取り組む際の留意点も見えてきた。今後は音読劇の活動を物語文に限らず、説明文や記事など様々なジャンルの読み物においても広げられるであろう。

キーワード：音読、劇、演劇的手法、読解、日本語初級クラス

1. はじめに

日本語教育の読解授業の活動は内容を細かい部分に至るまで正確に読み取ることを目的とする精読、おおまかな内容をできるだけ速く読み取る速読、読むことに慣れ親しむことを目的とする多読など、様々な活動が挙げられる。中でも「読んで理解する」ことを目指す読解の授業は、教師から学習者への「問い」とその「答え」の確認作業が主となり、とかく単調になりがちである。一方、学習者の主体性を重んじ、教材作品を理解し表現することを目的にスキットや劇などの活動を取り入れることも可能である。これら演劇的活動は学習者が能動的に参加でき、他者との協働もしつつ、楽しみながら学習に取り組むことができる点で利点が多いが、時間的にも教師の負担も多く、忙しいカリキュラムの中、容易に行えないのが現状である。筆者らは2015年に南山大学外国人留学生別科FD研修として行った音読劇のワークショップに参加した¹⁾。その後、日本語の授業においても度々音読劇を試みる中、授業で学習者が主体的に楽しく学習に参加している様子から、音読劇の

意義を実感している。音読劇の効果は、これまで外国語教育（特に英語）での実践報告の中では指摘されているが、日本語教育においてはまだ実践報告や研究がない。以上を踏まえ、これまでの音読劇の実践を振り返り、更により良い教育を目指したい。

2. 先行研究

2-1. 音読劇とは

音読劇は英語圏では Readers Theater と呼ばれる活動で、「複数の読み手が暗唱せずに脚本を手にして読む」活動であり、「英語圏では、舞台表現から大学教育の場で、特に1970～1980年代以降は、言語スキルを向上させる活動として初等・中等教育で広く導入されている」（浅野・草薙2015）。オーラル・インタープリテーション（Oral Interpretation/作品解釈表現法）の一つであり、文学・非文学作品を問わずに聴衆に表現し伝える活動である（浅野・草薙2015）。つまり、通常の劇では役者は脚本に書かれた自分の役のセリフを暗記して、役になりきって舞台上で表現する一方、音読劇は劇同様に聴衆に向けて作品を表現し伝える活動であるが、読み手は脚本を暗記しないで、読みながら作品を表現する活動である。

また、Readers Theater は複数の読み手が作品を解釈して読んで表現するものである。そのため、解釈によって一文を複数の読み手で分けて読んで表現することも可能である²⁾。

一方、日本において Readers Theater と同様な活動に「朗読」がある。朗読も作品の世界を読み手が表現する活動で、一人で朗読したり、複数で朗読したりするが、通常、一つの文を一人の読み手が読む（浅野・草薙2015）。

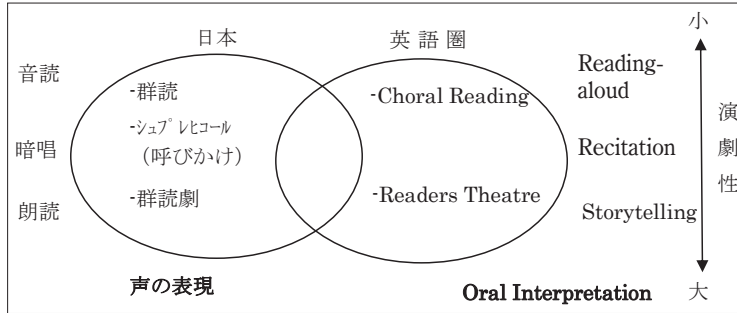
また、日本で「群読」と呼ばれる活動は Readers Theater と類似点が多い。群読も二人以上の読み手で行う語りであり、作品の世界を効果的に表現する活動である。舞台芸術だけでなく日本の初等・中等・高等教育の国語教育においても広く実践されている（浅野・草薙2015）。

音読劇と通常の劇との違いについて浅野・草薙（2015）は次の点を挙げている。

- ・音読劇は通常3名以上のグループで発表する。
- ・劇のように台詞を暗記しない。
- ・劇のように読み手が互いに顔を合わせる場面はなく、全て聴衆に向かって話しかけるように音読する。
- ・劇のように衣装、大・小道具、照明、音響効果などをあまり使用せず、読むことで聴衆の想像力に訴えかける性質のものである。

以下に音読劇など声に出して行う表現活動についての関連図を示す。

図1 群読とRT(Readers Theater)の周辺活動 (浅野・草薙 2015)



2-2. 音読劇の教育実践

英語圏において音読劇 (Readers Theater) は舞台芸術としてだけでなく、様々な教育活動の場でも行われている。特に言語スキルを向上させる活動として英語圏の学校教育で導入されている。Clementi (2010) によると、音読劇の練習は、宿題として家で家族などと練習することを含め、3~4日かけて15~20回行うとよいとされている。このように繰り返し読むことにより、読みにおける正確性やスピードが上達し、流暢に読めるようになり、理解力も深まると言われている。

日本では英語教育の中で音読劇の実践が見られる。浅野・草薙 (2015) は日本人大学生の英語の授業において音読劇を実践し、効果を見出している。ここでは音読劇の学習効果として「学習者主体の活動」「新たな英語学習への自信を持つようになる」等が指摘されている。また養成しうるスキルや能力として、

- ・脚本を作成する過程において英語音読の流暢さ・読解力・語彙力・文法力、創造力を養成する。
- ・練習を通して、協調する力、責任力、完遂力を養成する一方で、英語を繰り返し聞き話すことで英語の聴解力、話す力、プレゼンテーション力を養成する。
- ・自信を持たせる、他者と一緒に物事を達成する楽しさと喜びを味わわせる。
- ・何か別の作品を読みたいという動機を高める。

といった点を挙げている。更に、音読劇が作品の内容理解を促進するための方法として捉えられないかという試みもなされている (浅野2013)。

3. 日本語教育における音読劇の実践

通常の朗読では一人の読み手が配役のセリフを全て読んだり、ナレーターがナレーターの部分を全て読んだりするが、音読劇では配役が自分のセリフの部分だけではなく、セリフ以外のその配役の行動が描写されている部分も読むことができる。つまり一文を複数の

配役とナレーターで読む個所をそれぞれ分けて読む可能性もある。このように読む際、学習者は誰の行動についての描写か本文を細かく理解する必要がある。次に示すのは日本語教育における音読劇の脚本の例である。

音読劇の脚本の例 (ナレ=ナレーター おじ=おじいさん おば=おばあさん)
一般的な劇、朗読劇

ナレ	むかしむかし、山の中におじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんとおばあさんはうちでかさを作っていました。
ナレ	あしたはお正月です。新しい年がはじまります。でも、おじいさんとおばあさんはお金がなかったから、お正月のおもちもありませんでした。二人はかさを売って、おもちを買うつもりでした。

音読劇

ナレ	むかしむかし、山の中におじいさんとおばあさんが
おじ&おば	住んでいました。
ナレ	おじいさんとおばあさんは
おじ&おば	うちでかさを作っていました。
ナレ	あしたはお正月です。新しい年がはじまります。でも、おじいさんとおばあさんは
おじ&おば	お金がなかったから、お正月のおもちもありませんでした。
ナレ	二人は
おじ&おば	かさを売って、おもちを買うつもりでした。

上記のことに留意して、本学外国人留学生別科初級クラスにおいて音読劇の実践を行った。対象クラスは初級前半クラス1つと初級後半クラス2つであった。

3-1. 日本語初級前半クラスでの実践

1) 学習者

初級前半クラスの学習者は11名である。(内訳：アメリカ人4名、コロンビア人2名、ペルー人1名、スリランカ人1名、台湾人1名、香港人1名、オーストラリア人1名)

2) 授業の流れ

教材：「かさじぞう」(『げんき I』読み書き編第10課)

授業：全6回

第1回 (読解授業) 30分

クラス全体で「かさじぞう」の本文を読み、教師からの質問を考えながら内容を理解する。

第2回 (導入) 30分

音読劇のためのグループ分け、配役を決める。グループの人数は1グループ3、4人。過去の音読劇の録画の初めの部分を全体で見て、音読劇の仕方を確認する。グループで本文を読み合わせながら、配役ごとの読みの部分を分けていく。

第3回～第5回（練習）各15分

グループで練習をする。

第6回（発表）

グループごとに発表する。発表後に「優秀賞」を投票する。

3-2. 日本語初級後半クラスでの実践

1) 学習者

初級後半クラスの学習者は2クラス計27名であった（内訳：アメリカ人17名、中国人3名、インドネシア人2名、コロンビア人2名、フィリピン人1名、フランス人1名、ベトナム人1名）。うち、12名は先学期からの継続生で、先学期、初級前半クラスで上記の「かさじぞう」の音読劇を経験済みであった。

2) 授業の流れと方法

1回の単発の授業（90分）で行った。活動は3～4人グループになって行い、教材は、教科書『初級日本語げんきⅡ』の読み物、第16課「ドラえもん」からまんがドラえもんについてとアンキパンのストーリーの部分を取り出したもの、第20課「猫の皿」、第22課「友美さんの日記」から一部抜粋したもの、そして別の授業目的で本学教員が書き下ろした「ももたろう」の冒頭の部分という、計4つのテキストの中から好きなものをグループで1つ選ばせた。いずれの教材も一度は学習者が読んだことがあるもので、今学期勉強した読み物のまとめの活動として学期の終盤に行った。教材の長さは全て600～700字強に統一し、グループ間で活動にかかる時間にばらつきが出ないように考慮した。

グループで音読劇の教材を選んだ後は、各自配役とナレーターを決め、誰がどの部分を読むかの本文の仕分けを行ってから、練習に移り、最後にグループごとに発表をしてもらった。本文の仕分けに15分、音読劇練習に15～20分、発表に30分強という流れで行った。音読劇や本文の仕分けのやり方は、初級前半の実践で使用した「かさじぞう」の音読劇用スクリプトと、それを使って音読劇を行っている過去の学習者のビデオを用いて例を示した。上記「1)学習者」の通り、対象の学習者の半分が音読劇経験者であること、また、この活動に入る2、3日前に2クラス中1クラスでは、ミニ音読劇を行っていた。（第22課「友美さんの日記」の読み物の精読授業を行う際、教師が音読劇用に本文を登場人物が読むパー

トごとに色で仕分けしたものをパワーポイントで見せ、配役を決めて音読させた。また、これは今回の音読劇実践に使用した箇所とは違う本文の一部であった。) 従って、音読劇を本実践で初めて経験した者は、27名中7名のみであった。

4. 調査方法と目的

音読劇の実践から学習者は楽しみながら、活動に臨んでいることが窺える。先行研究では英語教育における音読劇の効果は指摘されているが、日本語教育における調査はまだ見当たらない。そこで日本語の授業において、①音読劇を取り入れた授業を振り返り、②音読劇の実践がもたらす効果を探り、より良い実践方法を模索することを目的とし、日本語初級クラスの学習者を対象にアンケート調査を行った。

1) 調査対象

2019年春学期(1月～5月)のJapanese I(初級前半)11名(回答者11名)、Japanese II(初級後半)27名(回答者26名)。

2) 調査方法

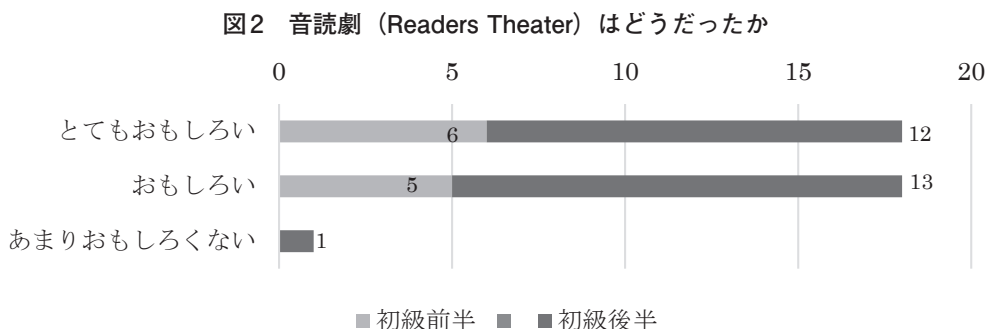
2019年春学期(1月～5月)における音読劇実践後に紙面によるアンケート調査を行った。

5. 結果と考察

5-1. 音読劇全体の感想

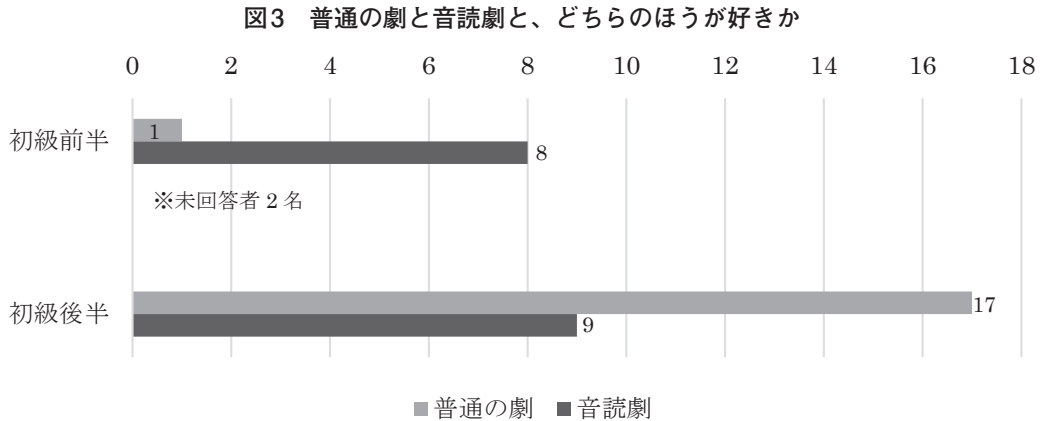
1) 「音読劇はどうでしたか」

「音読劇はおもしろかったか」という質問に対し、「はい(とてもおもしろい+おもしろい)」と答えた学習者は、初級前半では100%、初級後半では96%であり、ほぼ全員がおもしろいと感じていたようだ。(図2)



2) 普通の劇と音読劇を比べて

「普通の劇と音読劇とどちらが好きか」聞いたところ、「音読劇」と答えた学習者は、初級前半では約89%に上った一方で、初級後半では34%にとどまった。(図3)



「音読劇のほうが好きだ」と答えた学習者が挙げた理由には、「スクリプトを覚えるより簡単だ、母語でも覚えるのは大変なので日本語ではもっと大変だ」といった暗記に関するコメント、「普通の劇は時間がかかる」、「たくさん準備しなくてもいいのに日本語の練習になるのでよい」といった負担が少ない反面効果が期待できるというコメント、「劇は誰かが失敗した時にアドリブをするのが難しくそこで止まってしまう」など、普通の劇より音読劇のほうがハードルが低く、学習者の負担も少ないというものが挙げられた。また、少数ではあるが「ストーリーが含むメッセージについて考えることができる」といったテキストを深く理解できるという意見もあった。一方、「普通の劇のほうが好きだ」と答えた学習者からは、「自分で文法を使って、オリジナルのストーリーを考えたい」、「音読劇はやさすぎる」、「スキットをやる前の準備段階として音読劇をするとよい」など、実際に自分で文法や単語を使ってスキットを作りたい、自分で作ったほうが日本語の勉強になるという意見があった。

初級後半より初級前半の学習者の方が音読劇を好む傾向があることから、音読劇は学習者にとって劇よりもハードルが低く取り組みやすい反面、ある程度日本語で自分を表現できるようになった初級後半の学習者には少し物足りなさがあり、もう少しチャレンジしたいと思うようだ。スキットをする前の準備として取り入れる、またはスキットをするほど時間的余裕がないという場合に音読劇を取り入れることが効果的かもしれない。また、今回、音読劇を体験した初級後半の学習者は同学期中、音読劇を実施する以前に自分たちでオリジナルの脚本を書いてスキットをしたという経験がある。スキットで達成感を得た学習者は2つの活動を比べて、やはりスキットのほうがやりがいがあったと感じているよ

うだ。

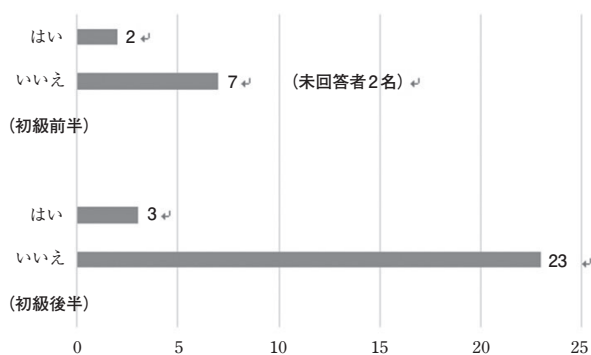
初級後半の学習者が音読劇を簡単で物足りなく感じたその他の要因に、使用した教材が既に学習した教科書の読み物であったことが挙げられるかもしれない。音読劇は、15～20回など繰り返し練習することで単語を文脈の中で理解できるという利点があるが、学習者が既に読んだことがあるスクリプトを使うと、まだ何度も読み込む活動をしていなくても、あまり新しいことが学べず、簡単すぎると感じてしまうのかもしれない。

3) 音読劇は難しかったか

「音読劇は難しかったか」という質問については、ほとんどが「いいえ」という回答であった(図4)。音読劇は普通の劇と異なるが、学習者にとって難しさはほとんど感じられず、取り入れやすいと言える。

「難しかった」という回答の理由について、初級前半では「最初はストーリーについていくのが難しかったが、練習をしていくうちに易しくなっていた」、初級後半では「説明があまりわからなかった」「発表すれば恥ずかしくなるから」などの理由が挙がった。また、音読劇を「セリフを覚えるもの」と考えていたり、発表の際に動作をつけて演じなければならないと思いついていたりしたことを難しかった理由として回答した学習者もいた。初めて音読劇に取り組む際にはこのような誤解が起こり得るため、音読劇について学習者が理解できるように、最初にやり方を丁寧に示し、誤解を防ぐことが必要であろう。

図4 音読劇はむずかしかったか



5-2. 音読劇における学習効果

次に音読劇における学習効果について述べる。アンケートでは「音読劇で何が勉強できると思うか」について以下の項目の中から選択してもらった(複数回答可)。

- ①単語
- ②文法

- ③読解力：ストーリーの流れがよくわかる
- ④読解力：その場面が頭の中で想像できる
- ⑤読解力：ストーリーに出てくる人の気持ちがもっとよくわかる
- ⑥発音：発音・イントネーション
- ⑦発音：スムーズに読む
- ⑧その他

結果では、初級前半及び後半どちらも全ての項目において音読劇の効果が指摘された。どちらも、勉強できる項目として「単語」を挙げている学習者が一定数いることから、先行研究で指摘されている通り（浅野ら2015, Clementi 2010）、文脈の中で単語が理解できると学習者が実感していることがわかる。また、発音の流暢さにおいても英語教育における先行研究同様、初級前半後半の学習者共に約4分の1の学習者が効果があると評価している。（図表5及び図表6）

図5 音読劇の効果（初級前半）

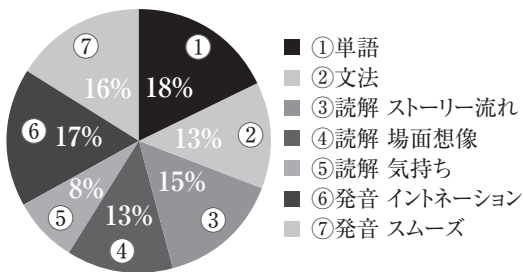
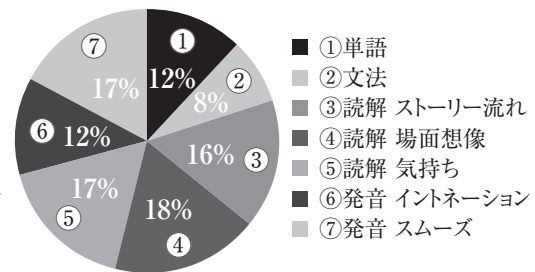


図6 音読劇の効果（初級後半）



初級前半の特徴としては、「単語」「文法」「読解」「発音」の4項目の効果において、「単語」が最も高く（18%）、次が「発音（イントネーション）」（17%）、「発音（スムーズに読む）」（16%）の順であった。また「文法」もやや高く（13%）、「読解（登場人物の気持ちの理解）」は低かった（8%）が、「読解（ストーリーの流れの理解）」については比較的高かった（15%）。

初級後半クラスでは、「読解（場面を想像する）」が最も高く（18%）、次が「読解（登場人物の気持ちの理解）」（17%）、「発音（スムーズに読む）」（17%）が同率であった。一方、「文法」は低かった（8%）。

音読劇において、初級前半では語彙や発音、文法面など日本語運用に関する効果をより感じ、日本語学習が進んだ初級後半クラスになると、読解に関する効果を感じ、ストーリーを味わえるようになるのかもしれない。

5-3. 音読劇についての意見

最後に「音読劇についてどう思うか」という質問について自由に記述してもらった。学習者の意見は概ね「楽しかった」というものであったが他にも様々な意見が出た。表1は学習者から挙げた意見の例をまとめたものである。

表1 音読劇についての意見

<p>(楽しさ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おんどくげきはとてもおもしろくてたのしいです (前半) ・ I enjoyed it very much! I would gladly do it again in the future. (前半) ・ It is really fun. I think this would be great if just read out loud with emotion. (前半) ・ 音読げきはとても楽しかったです。特にもう読んだげきのが好きです。色々なバジオンが見られたからです。ほかのグループのげきを見るのが好きです。(後半) ・ とってもおもしろいと思います。いろいろなグループの方法を見るのが楽しいです。それに時々、気分転換がいいから、これはいい考えだと思います。(後半)
<p>(協働に関するもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 皆、一緒にかんばって、いいな (前半) ・ I think it is a good way to practice speaking Japanese and work with other students. (前半)
<p>(取り組みやすさ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ It is a nice exercise, it's also less stressful than the skit because reading is less challenging than remembering by heart. (後半) ・ 楽しくておもしろいと思います。たくさんれん習しないで、できるし、ストーリーがわかるので、おんどくげきが好きです。It is also more relaxing than ordinary skit. (後半)
<p>(学習効果に関するもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I think it is a really good way of learning about Japanese folktales while also learning how vocabulary is used in real life. (前半) ・ おんどくげきについて本当におもしろいと思います。私たちは色々なことをならったからです。たとえば、キャラクタ (キャラクター)、たんご、文法、はつおん。(後半) ・ 楽しかったです。It made me think about the structure of sentences more. (後半) ・ The readers Theater is both fun and serves an educational purpose. When figuring out who says what lines we learn about who does what in the story. For example おしえて one character くれました another character. It helps with reading comprehension when we act out the characters as well. (後半) ・ おもしろいと思います。ストーリーのキャラクターの気持ちとか だれのアクションとか、普通にならなかつたことが勉強しました。(後半)
<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I thought it was a lot of fun to so, but might not have been the best learning tool for me. (前半) ・ 楽しかったがスキットのほうが楽しかったです。(後半) ・ I loved it, although it would have been better to do stories we haven't read before to make it harder. Since we had already read the stories a couple times, it was かんたん. But it really did help with fluency and pronunciation. (後半)

学習者は音読劇について、概ね「楽しい」と感じていることがわかる。そして「楽しいのでまたやりたい」という意見や「発表で他のグループの音読劇を鑑賞することも興味深い」という意見があった。

また、「音読劇の取り組みやすさ」に関する意見も見られた。「通常の劇と比較して音読

劇は暗記によるストレスが少ない」「あまり練習時間がなくてもできる」など、音読劇が通常の劇よりも学習者の負担が少なく、授業に取り入れやすいことが示される。

学習効果に関する意見も多かった。語彙や文法、発音の他、「登場人物の気持ちや行動が分かるようになった」「文の構造について深く考えるようになった」などの読解に関する意見もあり、音読劇により読みが深まることを示していると言えよう。

一方で音読劇についての否定的な意見もわずかながらあった（表「その他」）。いずれも音読劇は楽しかったと思う反面、より他の活動を好むという意見や音読劇の改善についてである。改善では「これまで読んだことのない新しい話でやったほうがいい」などがあつた。

6. まとめと今後の課題

アンケート結果より、音読劇について、多くの学習者が難しくないにもかかわらず、日本語の学習効果があると感じていることが分かった。初級前半の学習者にはより日本語運用に関する効果が、初級後半の学習者にはストーリーについて深く考え、味わうことに関する効果がより認められた。音読劇は普通の劇より、時間的拘束や学習者の負担が少なく、特に初級前半の学習者や日本語にまだあまり自信がない学習者には取り組みやすい課題であることも明らかになった。

一方、ごく少数ではあるが、音読劇に関して否定的な意見もあったが、それは学習者が音読劇のやり方を十分理解していなかったことが要因であった。最初に音読劇のやり方を丁寧に示し、学習者が理解することが必要（特に普通の劇との違い）である。今後はビデオだけでなく教師がモデルの音読劇をやって見せたり、初めにテキストの仕分けの指導をもう少し時間をかけて丁寧にしたりするなどして、学習者が音読劇のイメージをつかめるようにしたい。

また、音読劇の練習は、宿題として家で家族などと練習することを含め、3~4日かけて15~20回行うとよいとされているが(Clementi 2010)、限られた授業時間の中、どのくらいの練習時間を授業中に設けるのか、また学期中どのくらいの頻度で実施するのかも課題である。タイトな授業スケジュールの中、発表の時間を含めある程度の授業時間を確保しなければいけないが、回数を重ね学習者が慣れてきて本文の仕分け作業がスムーズにできるようになることや、宿題として授業時間外に練習を課すことなどで、授業時間をあまり取らない工夫もできるだろう。また、新しい読み物を勉強する度に実施することは厳しいとしても、どのくらいの頻度で取り入れれば効果的なのかを吟味する必要がある。

更に、実施期間や使用教材においても検討の余地がある。初級後半のクラスで、復習として教科書の既習の読み物の本文を使用して行った場合は、物足りなさを感じる学習者が

多かった。また、物語は音読劇に適しているが、説明文など、物語以外の読み物の音読劇の可能性はどうか、その場合教材の仕分けはどのように行うかも興味深い課題である。

(注)

- 1) 筆者らは2015年度南山大学外国人留学生別科FD研修として、浅野享三氏による「Readers Theatre (音読劇) の外国語教育への応用」ワークショップに参加した。
- 2) 音読劇において、読み手が読む箇所を分ける作業を「仕分け」と呼ぶ。

参考文献

- 浅野享三・草薙優加 (2015) 「英語音読劇の実践—群読とリーダーズ・シアターの交差的視点から—」 IAPL オンラインジャーナル、国際表現言語学会、第2号、p. 19-35
- 浅野享三 (2013) 「計量テキスト分析から考察する内容理解を促進する音読指導」 中部地区英語教育学会紀要42、中部地区英語教育学会
- Lara Beth Clementi (2010) Readers Theater A Motivating Method to Improve Reading Fluency, *Kappan February 2010, pdkinti.org* 85-88.

A Practical Report on Readers Theater conducted in Elementary Japanese Language Courses

Nanae FUKUTOMI, Miyuki DOI

Abstract

Skits and plays are often used in foreign language learning. Readers Theater is another method of learning a language. This is a practical report on Readers Theater conducted in two levels of elementary Japanese language courses. The result of the questionnaire conducted at the end of Readers Theater shows that almost all the students consider Readers Theater as fun, and some of them, especially Novice-Low learners, think that Readers Theater is easier than skits or plays to work on. Another finding is that Novice learners think Readers Theater improves their intonation and fluency, as well as helps them to develop vocabularies and awareness of various grammar in context. In addition, Novice-High students think Readers Theater enables them to analyze the text more deeply and imagine the scene. If Readers Theater can help students better understand the text, teachers should explore the possibility of applying texts other than stories, such as thesis and essays to Readers Theater.

KeyWords : oral reading, skit, theatrical method, reading comprehension, elementary Japanese language course